

早期肺癌の術後予後検査方法

esRAGE分子は、TNM stage I の早期肺癌の予後予測因子として有効！

概要

近年、患者数が増加の一途をたどる肺癌では、臨床病期の早期(Stage I)であっても、その手術後5年生存率は65%にとどまり、残りの35%は治癒切除術が施行されているにもかかわらず再発または遠隔転移で命を落としている。これらの予後不良症例は、手術が終了した段階では区別することが出来ず、その後の長期経過観察期間を必要とする。本発明は、肺癌の予後予測、特に**早期肺癌の予後予測に有用なマーカーとしてのesRAGE (endogenous secretory receptor for advanced glycation endo-products)の有用性を見いだした**ことに基づく。

効果

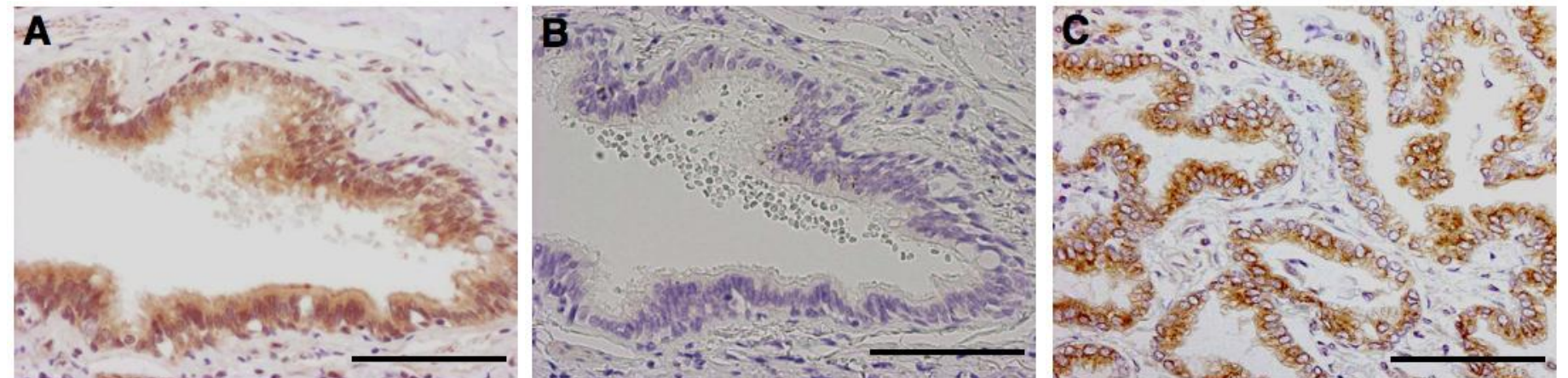
esRAGEは、正常肺組織で高発現し、癌発症によって発現量が減少する(右図上段)。esRAGEの発現は術後予後と有意に相関し(右図下段(A))、さらにその関係は早期肺癌でより強く認められる(右図下段(B))。統計学的解析では、esRAGEは早期肺癌の予後因子として機能すること、またTNM病期とは独立した予後因子であることが確認された。

esRAGE分子はタンパク質、mRNAのいずれでもよく、また全ての肺癌種において予後因子として機能する。esRAGEの発現量(癌組織における発現量低下)を指標とする早期肺癌患者の術後予後予測は、以後の治療・投薬方針の選定の一助となり、患者のQOL向上に貢献すると期待される。

特許データシート

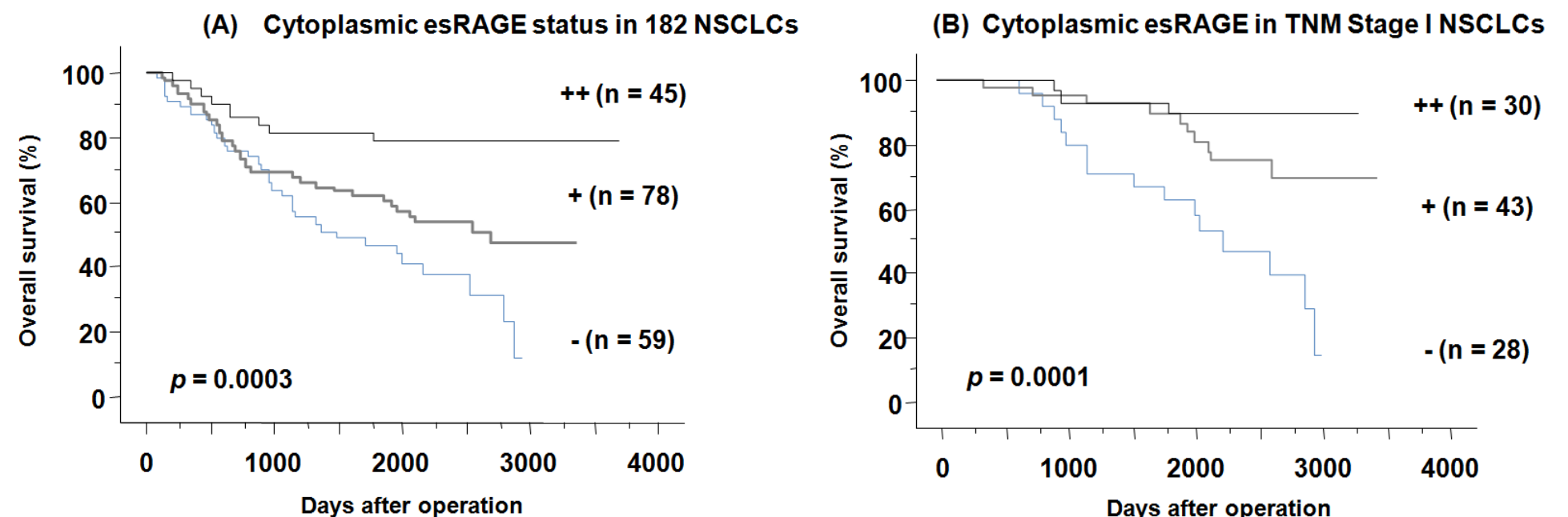
出願番号(整理番号): 特許第4779115号(T05-010)
発明者: 久保 裕司、ほか

esRAGE免疫染色による正常肺組織/肺癌組織における発現解析



(A) 正常肺組織での染色像, (B) recombinant esRAGEタンパクを用いた(A)の隣接切片における吸収試験での染色像, (C)非小細胞性肺癌(NSCLC)における染色像.

esRAGE免疫染色陽性肺癌症例と術後予後との関係



(A) NSCLC 182症例におけるカプランマイヤー分析, (B)TNM Stage IのNSCLC症例(n= 101)に限定した場合のカプランマイヤー分析. ++, +, -は病理医による染色性の評価(++:陽性, +:一部陽性, -:陰性)、カッコ内はその症例数を表わす.

連絡先

株式会社 東北テクノアーチ

TEL 022-222-3049 FAX 022-222-3419

お問い合わせは、[こちら](#) からお願い致します。